

一人朗読シナリオ（5分尺）

「流れ星の、その先で」— 凧咲一人語り

【オープニング】

《BGM：♪ 静かなピアノ／冬の旋律》

《SE：風の音》

凧咲（語り）

12月の夕暮れは、少しだけ寂しい。

春になったら、この町を出る。

東京の大学に進むことは決まっていたけれど、蒼空くんには言えなかった。

言えば、今の穏やかな時間が壊れてしまいそうで。

【Scene 1：放課後の教室】

《SE：シャーペンの音→止む》

凧咲（語り）

だから私は、さりげなく聞いた。

「ねえ、12月14日って、何の日か知ってる？」

彼の答えは「クリスマスまであと10日？」——やっぱり彼らしい。

私は笑って言った。「正解は、ふたご座流星群」

そして勇気を出した。「一緒に見に行かない？」

【Scene 2：展望台】

《BGM：♪ 星の瞬きを感じさせるピアノ》

《SE：風の音、流れ星チリチリッ》

凧咲（語り）

12月14日。夜空は無数の光で満ちていた。

流れ星が落ちるたび、胸の奥が熱くなる。

私はようやく言葉にした。

「春に、この町を出るの。東京の大学に」

本当は怖くて黙っていたけれど.....伝えずにはいられなかった。

「わたしね、流星群と一緒に見た人と、来年もまた見たいって思ってたの」

そして彼は言ってくれた。

「来年、俺が行く。東京でも、同じ空は見えるよな？」

涙があふれそうになった。

「.....うん。約束、してくれる？」

「するよ。流れ星に願うより、ずっと確かな約束を」

【Scene 3：1年後・東京】

《SE：携帯のバイブ音→通話》

《BGM：♪ 温かなピアノ》

凧咲（語り）

一年後、東京の夜空。

都会の灯りに負けそうでも、確かに星は瞬いていた。

「.....空、見てる？」

「うん。今、ちょうど流れたよ」

同じ星を、同じ空の下で見ている。

あの日の約束が、私たちをつないでいた。

【エンディング】

《BGM：♪ 希望を感じる音へ》

《SE：夜空を流れる星》

凧咲（語り）

流れ星はすぐに消える。

けれど、あの日交わした約束は——

どんな空よりも確かに、心に残り続けている。

——完。